

平成24年度「自立と体験4」報告書 目次

はじめに	1
1. 経緯	1
2. 全体構想	2
3. 教育目標、到達目標	2
4. 外部業者との連携の経緯	2
5. 「自立と体験4」の授業内容の作成	3
1) 授業内容	3
2) シラバス	3
6. 授業内容の特徴および運営について	4
1) 授業内容	4
2) 授業運営	5
3) 授業準備	6
7. 結果報告	6
1) 出席率	6
2) 単位修得率	6
3) 学生へのアンケート結果より総括	6
8. 授業終了後の対応	9
9. 次年度への課題	9
1) 授業内容について	9
2) 運営について	9

別添資料

- 資料 1： 平成24（2012）年度4月開講に向けてのスケジュール
- 資料 2： 明星大学体系的キャリア教育プログラム図について
- 資料 3： 3年前期 「自立と体験4」シラバス
- 資料 4： 「自立と体験3」「自立と体験4」を受講する皆さんへ受講のためガイドブック～
- 資料 5： 「ニュースを考える」演習シート サンプル
- 資料 6： 「自立と体験4」200字演習のテーマ一覧
- 資料 7： 平成24年度 「自立と体験4」担当教員名一覧
- 資料 8： 授業運営上の工夫
- 資料 9： 「自立と体験4」授業後に実施したアンケート
- 資料 10： 平成24年度「自立と体験4」出席率
- 資料 11： 平成24年度「自立と体験4」アンケート用紙
- 資料 12： 平成24年度「自立と体験4」アンケート結果
- 資料 13： 「自立と体験4」を履修した学生の皆さんへ（お知らせ）

「自立と体験4」報告書

平成24年度版

平成24年度前期開講した全学キャリア教育「自立と体験4」について実施報告

明星教育センター
2012/10/31

(5) 従って、「自立と体験3」と「自立と体験4」においては、就職活動のテクニックを付与するよりも、①テクニックの土台となる基礎力の付与、②仕事や労働、社会人としての意識を身につけることに重きが置かれる。

(6) 授業概要は「自立と体験3」「自立と体験4」とともに、次の通りである。①自由科目とする、②半期15回の授業を行う、③2単位とする、④評価は「合・否」とする、⑤全学共通科目で行う、⑥全学部学科横断を基本とする、⑦体験学習、協同学習を中心とする、⑧1クラス30名ほどを基本とする。

3. 教育目標、到達目標

明星大学における体系的キャリア教育の教育目標は下記のように設定した。

・教育目標

- 1) 自己実現を目指し、職業を持つ社会人として自立できる能力と意欲を育てる
- 2) 生涯を通じての継続的な学習意欲と就業力の育成

・到達目標

- 1) 体験活動を通して、自分の生き方を考えられるようにする。
- 2) 自立する人間として、自らの生き方について、自分自身で考え決断し行動できるようにする。
- 3) 自らの人生を生き、働くことが社会貢献につながる基礎を作る。
- 4) 人生を通じて学び続け、働くことを楽しめるようにする。

4. 外部業者との提携の経緯

「自立と体験3」と「自立と体験4」の具体的な授業内容、教材の作成、運営の方法などについては、明星教育センターを中心に、外部の業者と提携して進めていくこととなった。それは、構想時点から実施までが1年未満という短期間であったことが主要な理由である。

1) 業者の選定

業者の選定については、キャリアセンターその他の協力を得ながら、5社から3社を選び下記のように行った。

- ① 最初5社と面談し大学側の意向を説明した上で、書類による企画書を提出させ、書類選考により3社に絞った。
- ② 3社に対してより具体的な内容で「自立と体験3」と「自立と体験4」について説明した。
- ③ 各社はその説明を受けて、企画を作成しプレゼンテーションをした。
- ④ プレゼンテーションの結果、平成23(2011)年9月下旬に株式会社リアセック(以下リアセック)を提携業者として選定する。

5. 「自立と体験4」の授業内容の作成

授業内容の作成は、プログラム図の内容を基本とし、リアセックと意見交換して進めた。その上で作

平成24年10月31日

平成24(2012)年度「自立と体験4」実施報告

明星教育センター

はじめに

平成24(2012)年4月に開講した「自立と体験4」は前期に終了した。構想から実施まで1年弱という厳しいスケジュールの中で開始したが、大きな問題もなく終了することが出来た。

全体としては、受講した学生の出席状況、授業アンケート等の結果をみても、本授業に関する評価は非常に高いものであった。今後「自立と体験4」の授業を進める中で、明星大学におけるキャリア教育の方向性を確立していきたい。

以下、今年度「自立と体験4」の報告をする。

1. 経緯

大学設置基準改正により、キャリア教育体制を整えることが義務化(平成23(2011)年4月1日施行)され、明星大学においてもキャリア教育検討委員会(田中修三委員長)による「キャリア関連科目編成ガイドライン(答申)」(平成22(2010)年10月12日)がまとめられた。この「キャリア関連科目編成ガイドライン(答申)」をもとに、全学教育委員会にて「全学体系的キャリア教育プログラム作成」が提案(平成23(2011)年7月26日)され、ワーキンググループが立ち上がった。同ワーキンググループは、「自立と体験4」の平成24(2012)年4月開講、「自立と体験3」の平成24(2012)年9月開講に向けての全学教育委員会、学部長会、各教授会の意見聴取、大学評議会等の議を経て設置に至った。「自立と体験4」および「自立と体験3」は、全学共通科目の自由科目としての位置づけであり、科目の運営管理は明星教育センターが行うこととなった。(資料1)

2. 全体構想

「明星大学体系的キャリア教育プログラム図について」(以下プログラム図)(資料2)を作成した。プログラム図のとおり、明星大学のキャリア教育は以下の特色がある。

- (1) 明星大学におけるキャリア教育の教育目標と同到達目標を前提とし、具体的には「自立と体験3」は『社会人基礎力を身につける』、「自立と体験4」は『就職力を身につける』という目的を挙げている。
- (2) 1年次前期の「自立と体験1」、1年次後期あるいは2年次前期に各学科が行う「自立と体験2」、2年次後期に実施する「自立と体験3」、3年次前期に実施する「自立と体験4」というように一連の、そして一貫した「体系的キャリア教育」を目指すものとなっている。
- (3) さらに、「自立と体験4」以降あるいはそれと並行する形で、各学科での学生の個別指導、キャリアセンターのより具体的な就職指導および就職活動支援へと有機的に結び付けていく。
- (4) そのために特にキャリアセンターとの連携をはかる。

いくプロセスを体験させた。このような問題解決技法を用いて、グループで議論するスキルを学んだ。

第15回総まとめキャリアデザイン>；15回の授業を通しての自分の変化・成長をふりかえり、夏休み以降の就職活動への導入を意識させた。

6. 授業内容の特徴および運営について

1) 授業内容

① 協同学習・体験的学習

授業の進め方は、「自立と体験1」と同様に協同学習や体験的学習を中心としている。各クラスは4～6名のグループに分かれての作業や討議を通して学ぶような内容としている。

② 社会人としての授業への参加意識

「自立と体験4」を履修する学生に対して、「受講のためのガイドブック」（資料4）を作成し配付し、授業の意味、履修のマナー、約束事、単位の修得について理解させるようにした。特に、この授業では学生を社会人と同等に扱うことにより、社会人としての自覚をうながすことを目的としている。例えば、授業を欠席した場合には「自立と体験4 欠席連絡票」を提出させている。

③ 演習内容の工夫（カード演習、VTR、ケース演習等）

価値観や仕事のやりがい等を考えるきっかけとして、カードを使った演習を行っている。「ライフタイムバリュカード」、「ストレングスカード」、「ワークバリュカード」の3つのカードを使用した。社会人の働く姿やグループ討議の実際を収録したVTR等の視聴や、設定した架空の企業のケース演習を通して、働くことを身近でイメージしやすしいものとした。

④ 「ニュースを考える」の実施

最近のニュースを毎回、授業の冒頭に学生に読ませ、そのニュースが自分たちや社会にどのような影響を与えるかについて討議した。目的は社会で起こることに触れ、「社会」への関心や理解を深めることにある。ニュースを考えるためのシート（資料5）を学生に配布し、個人演習をしようえで、グループで討議させるようにした。

⑤ 200字演習の実施（資料6）

就職活動等におけるエントリーシートを始め、文章による自己表現力や基本的な書く力は社会時になってからでも有効な力であると考えている。文章による自己表現力の育成を図るため、第1回目の授業を除き毎回の授業終了前に200字演習（授業に関連するテーマについて200字の文章にまとめる演習）を課した。特に、第2回、第4回、第7回の授業での200字演習は、明星教育センターの日本語表現講座担当の教員による文章添削を行い、添削評価をつけて学生に返却した。他の回は

成したのが、シラバスである。（資料3）

1) 授業内容

「授業内容」については、「到達目標（目指す状態）（この授業で伸ばしたい力）」に対応させた表にすることで、より具体的に表現している。

例えば、「教育内容」の一番下の「就職活動に必要な文章の書き方、自己表現の仕方等を指導する。」に對して、「脱字脱字無く文章を書き、ビジネス文章（結果的にエントリーシート）を書く事が出来る。自分自身だけの経験や考え方について話ができる。」という到達目標を置き、「文章表現・自己表現」の力を伸ばすとしている。実際の授業では「授業後、200字演習を課す」という形となっている。

2) シラバス

シラバスは各回に對して、「枠組み」、「内容」、「各回の概要」、「この授業の狙い」、「展開する手法」、「学ぶ要素・獲得する能力」を記載している。このことにより、それぞれの回の意味付けや授業の進め方、授業を通して伝えたいこと・学びたいことなどが明確になっている。同時に、授業の教材や教案を考えるにあたっても非常に分かりやすくなっている。

實際、この授業は複数の教員によって行われたのだが、それぞれの教員がこの授業の流れや各回の意味・内容を把握しやすくなっており、統一性をとるのに役立っている。

以下に具体的な内容について述べる。

第1回オリエンテーション；オリエンテーションにおいては授業の目的、15回全体の流れ、授業の特徴、授業を受けるうえでのルールなどを、講義や實際の演習を通して学生に伝える。特に、この授業で学生が考えるべき主要テーマとして「なぜ働くのか」を「ライフタイムバリュカード」を用いて考えさせた。

第2回～4回キャリアデザイン概論；この3回の授業では、VTRを用い社会人がどのような価値観や意識で働いているかを考え、ライフラインチャートを作成して自分自身のこれまでの人生をたどり、「ストレングスカード」を用いて自分の強みについて考えながら、自分の人生について改めて考えてさせた。

第5回～7回社会との関わり；自分自身の消費者としての体験を振り返りながら、社会人としての振る舞いについて考えた。また、社会における情報処理について紙情報、インターネット情報、また社会人インタビュウ等を実施し、人を介しての情報について考えた。

第8回～10回ケース演習；3回の授業はペットボトル飲料が出来るまでの過程を用いて一つのケース演習を行った。その中で様々な仕事や職種、会社の成り立ち等、また「ワークバリュカード」を用い自らの価値観について考えた。最後に、2つの会社の特徴をデータとしてあげ、それぞれの会社の採用情報を通して、企業が求める人材についても学んだ。

第11回・12回自己表現技法；コミュニケーションに関するゲームやグループ演習を通して、自分について伝える、質問に答えるスキルや、コミュニケーションの基本的成り立ちや機能について学んだ。

第13回・14回問題解決技法；社会で生きていくことはさまざまな問題に遭遇し、それを解決していくプロセスだともいえる。ここでは、VTRを視聴し、實際の問題を議論することを通して問題解決して

具体的に検討を進めた。場合によっては内容や教材を変更するというところもあった。メンバーは上記の教員と明星教育センター職員であった。これによって、スムーズな授業の進行が可能となった。また、既に終了した授業の内容を共有する機会も持ち、そのことも授業を進めるうえで非常に有益であった。

3) 授業準備

- ①具体的な授業準備、すなわち教材の印刷、機材の調達等は明星教育センターが担当した。
- ②配付資料の印刷については、印刷業者に依頼をした。
- ③授業で使用する教材については、明星教育センター内に担当教員ごとにボックス（資料8）を設けて受け渡しを行った。「自立と体験1」同様にプロキックや付箋、タイマーなどの文房具類については、一つの袋にまとめて入れて受け渡しを行った。
- ④毎回授業後に実施したアンケートについては、スキヤンネットシートを用い、学生が記入したシートをスキヤンして読み込み、データ化した。（資料9）

7. 実施結果

- 1) 出席率（資料10）
出席率は資料のとおり82.5%[※]の出席率となっている。
- 2) 単位習得率
単位修得率は、356名が合格で91.0%となっている。

3) 学生へのアンケート結果より総括
授業終了時に、「自立と体験4」を受けた学生に対してアンケート（資料11）を実施した。その結果を見ながら、授業に対する学生の意見をまとめる。ここではアンケートの中から特に授業に対する学生の意識にかかわる項目について項目ごとに考察したい。（資料12）
以下、学生アンケートの結果を見る限り、学生の「自立と体験4」に対する評価は高いことがわかる。

①あなたはこの授業に出席して、どのように思いましたか。

「よかった」と「ややよかった」の肯定的な回答は90%である。「自分を考えるきっかけとなった」、「就職を考えるきっかけとなった」、「社会に出る際の力を身に付けた」等の肯定的理由が多かったことから、この授業後のサポートが非常に大事になってくることが考えられる。
特筆すべきは、経済学部で「よくなかった」と答えたのは1名で、その理由は「4回もやすんでしまった」という自分への反省内容である。経営学部で「よくなかった」と答えた学生の理由の多くは「2年生でやった内容と同じ」というものであった。このあたりは経営学部との情報交

各講師がコメントを書いて返却した。
添削を依頼するに当たっては、「美文」よりも「わかりやすい」、「伝わりやすい」、「簡潔な」文章を目指すようお願いした。学生への効果は7-8) ③のアンケート結果にもあるように、文章力がついたという自己評価をしている。また、添削回数を増やしてほしいという意見も散見された。

2) 授業運営

- ①クラス編成について（資料7）
3年生前期科目として、18クラス開講し408名が履修している。
履修学生について、経済学部、経営学部、造形芸術学部の3学部が学科科目に読み換えることで、ほぼ全員履修の方向で参加を促した。実際には、経済学部は対象学生のおよそ3分の1の155名が履修、経営学部はほぼ全員の135名が履修、造形芸術学部が対象学生のほぼ全員の106名が履修した。理工・人文・情報・教育学部の学部横断クラスは12名の学生が履修している。
同一学科で編成したクラスと学部横断クラスの編成の違いによる差異は明確には出ていない。特に、学部横断クラスの履修者数が12名と少なかつたため、比較は難しかった。ただ、「自立と体験」という授業の性質上、「多様な参加者」同士が交流することの意義は大いと考ええる。

②担当教員について

担当教員は、明星教育センター特任・常勤教員3名、兼任講師1名、業務委託（リアセック）の派遣講師5名の計9名で18クラスを担当した。
明星教育センター教員のクラスと業務委託の派遣講師によるクラスでの差異については、有意データはない。しかし、リアセックとのミーティングを通して次のことが言える。リアセックの作成した教案・教材は、授業の中で学生に時間をかけて考えさせて答えを出すというのではなく、教材をこなす中で学ぶということを重視していた。
そのような教案・教材に対して、明星教育センターの教員は学科の特性を考慮したり、参加学生の様子を見て随時授業内容をアレンジしたりし、特に学生が考える時間を多めにとるというような措置をした。一方、業務委託の派遣講師は自身のプログラムをスケジュール通り進めていくことを重視している。これは、クラス毎の授業効果を一定にするための措置である。
明星教育センターとしては、後述のように授業の中で学生がじっくり考える時間をとることを年度の課題としているが、その点が明確になれば業務委託の派遣講師の授業もそれに対応したものになると考えられる。ただし、業務委託の限界として、指示通りの授業を進めるという点ばかりではなく、学生や学科に対応して講師が授業をアレンジすることは期待できないと考える。

③リアセックとの定期ミーティング

授業内容の説明や進め方の確認、教材・教案の説明・確認のため毎週金曜日の4時限目にリアセックとのミーティングを行った。ミーティングでは進行表やパワーポイントのスライドを見ながら

換も今後必要であろう。

②あなたがこの授業にどのように取り組みましたか

64%が「積極的に」この授業に取り組んだと振り返っている。「まあまあ取り組みました」も含めると、97%以上する学生が消極的ではない状態で授業に参加していたことになる。授業の最初に、積極的に授業に参加することの重要性を学生に伝えたが、そのことがきちんと伝わっていたようである。また、授業の内容自体学生が前向きに参加しやすい内容になっていたということである。

「まあまあ取り組みました」という学生の理由をみると、「積極的に発言できなかった」、「初めは意見が言えなかった」、「聞く側にまわってしまった」、「ふざけてしまった」などと、自分を反省し気づきのきっかけとなる内容がとて多かった。これは、きちんと自分を見る目を持った故の意見である。

③この授業を後輩にも推薦しますか

「大いに勧めたい」と「勧めたい」を併せた85%という数値はこれもまた高い回答率である。勧めたい理由を見ると、「自分のためになる」、「就活に向けて大事な授業だ」、「自分という存在が分からない人、自信を持ってない人におすすすめ」、「本気でまじめに取り組めば、あなたにとって非常に実りのあるものになるでしょう（自己分析など）」と、自分の体験・実感から記述する内容が多かった。

④授業を通して自分の生き方を考えるきっかけができましたか

3年前期の時点で、学生自らの生き方についてどのような意識を持っているのかと考察することが別途必要だが、今回は82%の学生が、この授業を受けたことにより自分の生き方を考えるきっかけとなったと回答している。このようなことを意識していなかった学生にとって、明らかに自分の将来について考えるきっかけとなっている。

⑤働くことを通じて社会に貢献するイメージが作れましたか

⑥社会に出て働くことの中に、楽しさを見つけれそうですか

この2つの問いは、社会化の意識あるいは社会人になることへの肯定感についての設問である。「自立と体験4」を通して、学生に社会に出て働くことの楽しさや期待感を持たせたいという意図があった。前者⑤は77%、後者⑥は84%と回答している。一般に、大学生が社会に出ていくことに対して、不安感を持つ、または否定的に捉えている傾向が強いとされるが、肯定的回答に注目すべき点だと考える。

⑦様々な仕事について理解が深まりましたか

⑧自分にあった職業を探したいと思うようになりましたか

⑩自分にとっての仕事の意味や価値がはっきりしてきましたか

この授業の目的の一つは、仕事理解と職業理解とすることがある。⑦と⑧および⑩の3つの問いは、学生の理解度について学生の状態を確認する設問である。⑦では82%の学生が仕事への理解を深めたという認識を持ち、⑧では92%の学生が自分があった仕事を探そうという意識を持ち始めたと回答している。また、⑨では77%の学生が社会に出て仕事をすることについて、自分と結び付けて考えるようになっていた。

そのような意識をより具体的に推し進める支援として、各学科やキャリアセンターで行われる講座等を期待したい。「自立と体験4」から学科およびキャリアセンターでの就職支援の流れが出来るようになることが期待されるものである。

⑨自分で考えて判断することの大切さが理解できましたか

⑪自分自身について新たな発見がありましたか

この2つの問いは、学生の自己認識、自己理解がこの授業を通して深められたかどうかを問う設問である。また、自ら考え、判断し、行動するという「自立」への意識でもあった。

数字的には判断力の大切さについては97%の学生が肯定的回答を寄せている。また、新たな自分の発見を経験した学生が80%であり、この授業の存在意義を証左するものである。

⑫情報収集の仕方が身につきましたか

⑬文章表現力が身につきましたか

この2つの問いは、この授業でのスキル面の意義を問う設問である。情報収集力では74%、文章表現力では70%の学生が肯定的回答をしている。情報収集力については、ケース演習と問題解決法の授業で特に使われる技法である。また、文章表現力については、第1回目を除き14回の200字演習を課しており、そのうち8回は明星教育センターの教員による添削を実施している。

このように、授業の中にスキル的な内容や課題をちりばめることで、学生自らがスキルの高まりを感じる事が出来る。

8. 授業終了後の対応（キャリアセンターへの接続）として

前期の授業を終えて、後期にリアセックの講師が学生へのフォロー面談を実施することになった。(資料13)これは、「自立と体験4」の授業終了後に、キャリアセンターの就職支援に接続するという最初の構想と合致したものである。また、授業を担当した講師から、この授業後の就職活動につながる学生フォローをしたいという申し出があったことから実施をした。実務的にはキャリアセンターが行い、実際の面談は授業担当講師が申込学生に対して後期授業時間内に実施している。

資料 1

平成 24 年 7 月 26 日
平成 24 (2012) 年 4 月開講に向けての今後のスケジュール (案)

日程	作業内容	備考
7 月 26 日	全学教務委員会にて「全学体系的キャリア教育プログラム作成」について提案	
平成 23 年度 7 月～8 月	案作成期間 ・業者オリエンテーション・教務企画議との調整	
9 月 8 日	業務連絡会 ・内容/方向性の確認 ・業者を数社選定	
9 月 13 日	全学教務委員会 委員会内に WG 立ち上げ	
9 月 22 日 ～11 月下旬	第 1 回 WG スタート 案をもとに実施方針案 WG (注 1) 日程：7 回開催	
9 月 30 日	キャリア教育 WG	実施方針案/キャリア教育 プログラム図案
10 月 5 日	全学教務委員会	実施方針案/キャリア教育 プログラム図案
10 月 13 日	学部長会	シラバス案作成
10 月 31 日	キャリア教育 WG	
10 月末	教授会意見聴取締め切り	
10 月 31 日	キャリア教育 WG	
11 月 2 日	全学教務委員会	シラバス案提出
11 月 4 日	キャリア教育 WG	全学教務委員会報告
11 月 10 日	学部長会	実施方針案/キャリア教育プログラム 図案修正案、参考：シラバス案
11 月末	教授会意見聴取締め切り	
11 月 30 日	キャリア教育 WG	シラバス進捗状況/教授会意見 聴取報告
12 月 2 日	全学教務委員会	シラバス進捗状況/教授会意見 聴取報告/シラバス案提出
12 月 8 日	学部長会	
12 月 8 日	大学評議会	
12 月～3 月	開講に向けての準備	
1 月～3 月	業者との打ち合わせ 1/19 (木)、1/26 (木)、2/1 (木)、2/13 (木)、2/20 (月)、 2/13 (火)、3/26 (火)	授業内容検討/アセスメント内容 検討/アンケートの運用
平成 24 年度 4 月～7 月	業者との打ち合わせ 4/2 (月)、4/6 (金) (講師顔合わせ) 3 年生前期「自立と体験 4」開講【4/13 (金)～】 毎週金曜 4 限 (4/13、4/20、4/27、5/11、 5/18、5/25、6/1、6/8、6/15、6/22、 6/29、7/6、7/13、7/27	第 1 回、2 回授業内容レクチャー、 講師顔合わせ (4/6) 第 3 回～第 15 回授業内容レクチャー (毎週金曜 4 限実施)

※注 1 継続中の部分は、12 月 8 日の大学評議会資料からの追加および変更点。

9. 次年度への課題

「自立と体験 4」は平成 24 年度内に、25 年度の内容を作ることになるが、平成 25 年度に向けての課題と改善について最後に述べたい。

1) 授業内容において改善事項

- ① 授業全般において 1 回の授業内容のボリュームが多く、学生がじっくり考えられる時間が少なかった。来年度は、考える時間、自分の意見をまとめる時間を持つようにする。
- ② 合理的に教材を使う授業改善を検討したい。例えば、授業内で使用するカードは 1 回きりの使用という場合が大半であり、カードを複数回利用する等、費用対効果を考えていきたい。
- ③ 1 回の授業進行上、セッション間の流れが不自然なところがあり改善する。

2) 運営について

- ① 多様な学生が互いに刺激し合える学部学科横断型のクラスが編成できるよう、受講学生の授業アンケート内容を公表するなど、学内への PR 活動を検討する。
- ② この授業について各学科からの理解と連携に務めていく。
- ③ 履修者の追跡調査を行い、結果をみながら授業改善にも役立てる。
- ④ 学内部署として、特にキャリアセンターとの連携を、より一層強化していく。

以上

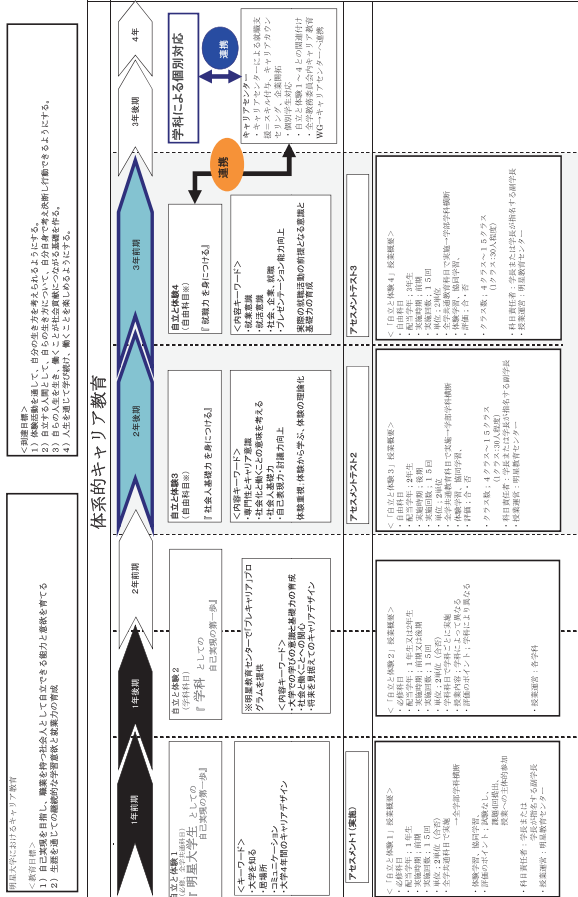
i 平成 23 (2011) 年 12 月 8 日学部長会議にて承認

ii 履修登録者 408 名のうち、授業に 1 回も出席していない学生が 17 名いた。出席率と単位取得率は履修者数 408 名からその 17 名をのぞいた 391 名で計算している

★3年前期「自立と体験4」

研修内容	研修目標(自習研修)	この研修で伸ばしたい力
様々な手段で仕事理解を深め、前向きな就業意識を高める。	仕事を体験していくことで就業意欲を高め、前向きな就業意識を高める。	① 仕事理解が深まる ② 前向きな就業意識 ③ 主体的な人生
主体的な選択により自ら自身を持っていく意欲を醸成する。	職業の理解を深め、自分の考えを伝えられる。	④ 職業活動に必要な基礎力 ⑤ 文章表現、自己表現
職業活動に必要な文章の書き方、自己表現の仕方等を指導する。	職業活動に必要な文章の書き方、自己表現の仕方等を指導する。	④ 職業活動に必要な基礎力 ⑤ 文章表現、自己表現
研修内容	研修目標(自習研修)	この研修で伸ばしたい力
1 オリエンテーション	職業全体の概要、取組方法の概説 キャリアデザインについての概説	① 職業活動に必要な基礎力 ② 文章表現、自己表現
2 キャリアデザイン概論	① キャリアデザイン概論 ② 社会人基礎力 ③ 人材市場 ④ 職業基礎力 ⑤ 社会からの期待を考える	① 職業活動に必要な基礎力 ② 文章表現、自己表現
3 社会との関わり	① 職業活動に必要な基礎力 ② 文章表現、自己表現	① 職業活動に必要な基礎力 ② 文章表現、自己表現
4 ケース演習	① ケース演習 I ② ケース演習 II ③ ケース演習 III	① 職業活動に必要な基礎力 ② 文章表現、自己表現
5 自己表現技法	① 自己表現技法 I ② 自己表現技法 II ③ 自己表現技法 III	① 職業活動に必要な基礎力 ② 文章表現、自己表現
6 問題解決技法	① 問題解決技法 I ② 問題解決技法 II ③ 問題解決技法 III	① 職業活動に必要な基礎力 ② 文章表現、自己表現
7 総まとめ	キャリアデザイン II	① 職業活動に必要な基礎力 ② 文章表現、自己表現

『明星大学体系的キャリア教育プログラム図について』



※ 科目については、詳細は別紙に記載されています。

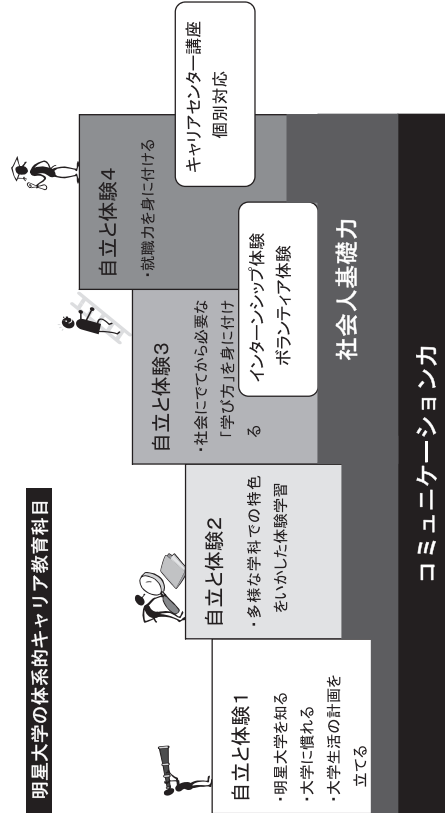
資料4

「自立と体験3」「自立と体験4」を受講する皆さんへ

～受講のためのガイドブック～

「自立と体験3」「自立と体験4」は将来社会人としてどう生きるのか、どのような人生をめざすのかを考えるきっかけとなることとして設置された授業です。1年次の「自立と体験1」から「自立と体験2」そしてこの「自立と体験3」「自立と体験4」を学ぶことによって、社会に出るための基本的な考え方や力を身につけることを意図しています。それらの考え方や力を身につけるためには、学生自身がそれを学ぼうという自覚が必要で、このガイドブックでは、これらの授業を受講する学生が受講前に知っておくべきことをまとめて書いています。是非このガイドブックの内容を理解して、授業に参加し、社会に出るための基本的な考え方や力を身につけ、積極的にキャリアに関わる授業や講座に参加してください。

明星大学の体系的キャリア教育科目



教育目標

- (1) 自己実現の第一歩として、職業を持つ社会人として自立できる能力と意欲を育てること
- (2) 生涯を通じての継続的な学習意欲と就業力の育成

到達目標

- (1) 体験活動を通して自分の生き方を考えられるようにする。
- (2) 自立する人間として、自らの生き方について、自分自身で考え決断し行動できるようにする。
- (3) 自らの人生を生き、働くことが社会貢献につながる基礎を作る。
- (4) 人生を通じて学び続け、働くことを楽しめるようにする。

「自立と体験3」(2年後期) 「学び方」を学ぶ/社会人基礎力を身に付ける

「学ぶこと」は学生だけのものではなく、社会に出てからも学び続けることが必要です。そのためには、「学び方」を知っておくことが非常に大切になります。

「自立と体験3」では、社会人のケースを取り上げ、グループに分かれて問題解決演習を行い、社会に出てからも必要となる「学び方」を身に付けます。

授業の中では、自身の社会との関わり方、社会の中での自らの役割について考え、将来を展望することができます。

さまざまな演習により、問題解決力や論理的思考、コミュニケーション力も身に付けます。授業での活動をおおして、社会で活躍する人となるための手がかりをつかみましょう。

■獲得する意識や能力

将来への展望 自己効力感 役割理解 社会人基礎力

■手法

個人演習、グループ演習、プレゼンテーション、グループディスカッション、講義、自己チェック、他者チェック、100字演習

■シラバス

回	枠組み	内容
1	オリエンテーション	授業全体の概要、取り組み方 キャリアデザインについての考え方 社会との関わり
2	問題解決技法	問題解決Ⅰ：体験を通して事実を見る 問題解決Ⅱ：課題を考える
3	問題解決Ⅱ	問題解決Ⅲ：解決策を考える
4	集団活動研究	チーム活動の基本
5	問題解決演習Ⅰ (基礎1)	①問題解決実践(基礎1) ②チーム活動振り返り・学習内容の整理 ③社会との関わりを考える
6	問題解決演習Ⅱ (基礎2)	①問題解決実践(基礎2) ②チーム活動振り返り・学習内容の整理 ③社会との関わりを考える
7	問題解決演習Ⅲ (発展)	①問題解決実践(発展) ②チーム活動振り返り・学習内容の整理 ③社会との関わりを考える
8	総まとめ	獲得した考え方や能力の整理・今後の目標設定

「自立と体験4」（3年前期）

就職力を身に付ける／社会人基礎力を身に付ける

「卒業後」について具体的にイメージできていますか？
 「社会に出て働く」とは、どのようなことでしょうか。
 「自分の人生を自分で作る」「キャリアを考える」とは、何をすることででしょうか。

「自立と体験4」では、自分で自分のキャリアを考えるためのステップとして、キャリアデザインについて学び、自分や社会について考えていきます。
 授業の中では、ケース演習や問題解決演習、グループディスカッション、プレゼンテーションを行い、これからの自分の人生を自分で作っていくために必要な力を身に付けます。

自分の未来に向けて、新しい一歩を踏み出す力を身に付けていきましょう。

- 獲得する意識や能力
 仕事理解 就業意識 主体的な人生 就職活動に必要な基礎力 文章表現・自己表現
- 手法
 個人演習、グループ演習、プレゼンテーション、グループディスカッション、講義、自己チェック、他者チェック、200字演習

■シラバス

回	枠組み	内容
1	オリエンテーション	授業全体の概要、取り組み方 キャリアデザインについての考え方
2	キャリアデザイン概論	①キャリアデザイン概論/グループ演習
3		②人と仕事Ⅰ：パーソナリティ・価値観/グループ演習
4		③人と仕事Ⅱ：適性・能力/グループ演習
5	社会との関わり	①社会からの期待を考える/グループ演習
6		②情報収集の手法/グループ演習
7		③人的ネットワークの構築/グループ演習
8	ケース演習	①ケース演習Ⅰ：物ができるまで（産業と社会）
9		②ケース演習Ⅱ：求める人物像（会社研究）
10		③ケース演習Ⅲ：働く動機を考える（職業研究）
11	自己表現技法	①自己表現技法Ⅰ：話す・聴く・要約する
12		②自己表現技法Ⅱ：プレゼンテーション
13	問題解決技法	①問題解決技法Ⅰ：問題の発見・真因追求
14		②問題解決技法Ⅱ：論理的思考・解決策検討
15	総まとめ	今後の目標設定・行動計画の策定

社会人基礎力（「自立と体験3・4」バージョン）

「自立と体験3」「自立と体験4」で身に付けて欲しい力を、社会人基礎力（「自立と体験3・4」バージョン）としてまとめました。「自らを成長させる力」「チームで働く力」「考え行動する力」は、いずれも社会に出て活躍していくために必要な力です。意識して授業を受けることで、それぞれの力を伸ばしていきたいでしょう。

自らを成長させる力	
実行力	自ら物事にとりかかり、実行に移す力
責任感	任されたことを途中で投げ出さず、最後までやりとげる力
貢献意識	他の人がのぞむことに応え、社会や組織に貢献する力
振り返る力 (体験から学ぶ力)	体験を振り返ることによって、学びを深める力
チームで働く力	
発信力	自らの考えを延べ、相手に伝える力
傾聴力	相手の考えや意見を聴き、理解する力
柔軟性	意見の違いや立場の違いを理解する力
規範性	自ら考えて、社会や組織のルールやマナーを守る力
考え行動する力	
問題発見力	さまざまな見方や広い視野で、ものごとをとらえる力
計画力	計画性を持って取り組む力
状況対応力	状況を理解し、臨機応変に対応する力
意思決定力	自分で考え、判断し、決定する力

受講に当たったの3つの約束

「自立と体験3」「自立と体験4」は、自分自身の人生のために役立てることができる力を身につける授業です。自分の人生のためから、自ら進んで、積極的に受講することが基本です。またグループワークを中心に、参加する学生1人1人が作り上げていく授業でもあります。以下の3つの約束を意識して受講してください。

1. 全ての授業に出席する
2. 全ての課題を提出する
3. 積極的に参加する



基本的なルール

「自立と体験3」「自立と体験4」は、社会に出て活躍することを意識しながら授業を進めます。受講する皆さんは、学生であるとともに「社会人としての意識」で授業に臨んでください。受講に当たったの約束に加えて、社会に出れば当然である「基本的なルール」を守るための具体的な行動を確認しておきましょう。

- 主体的に参加する
 - ・ 時間を守る
 - ・ ノートを取る
 - ・ 自分のポートフォリオは自分で管理し、ファイリングを行う
- コミュニケーションの基本を实践する
 - ・ あいさつ・返事を自分から積極的に言う
 - ・ やむを得ず欠席する場合は、担当教員に「自立と体験3・4欠席連絡票」を出す
- 自立した社会人としての行動をとる
 - ・ 最低限のマナーを守る（帽子や荷物の扱い、携帯電話の扱い等）
 - ・ 他人に迷惑をかける行動をしない

単位の修得について

- 評価は以下の点をもとに合否で判定します
 - ① 出席状況
 - ② 課題（授業内・授業外）提出状況
 - ③ 授業参加態度
- 授業は、全ての回に出席することが基本ですが、やむを得ない理由で欠席する場合は、事前または事後に担当教員に「自立と体験3・4欠席連絡票」を提出してください

学部・学科	
学籍番号	
氏名	

【問い合わせ先】
 明星教育センター（日野校 本館4階）
 電話番号：042-591-6534
 E-mail：mec@mec.meisei-u.ac.jp

「自立と体験4」200字演習のテーマ

回	採算日	オリエンテーション	200字演習お題
1	4月11日(水)、13日(金)、14日(土)、16日(月)、17日(火)	オリエンテーション	
2	4月16日(水)、18日(金)、20日(日)、21日(月)、23日(水)、24日(木)		『映画』をみた後、個性性理論を要約するために大切なポイント5つを200字で説明しよう。
3	4月25日(水)、26日(木)、27日(金)、28日(土)、30日(月)、1日(火)	自己理解の促進	ライブインタビューの発表を聴く前に、発表者のために意識してきたことをまとめてみよう。
4	5月9日(水)、10日(木)、11日(金)、14日(日)、15日(月)、16日(火)		自分の強みかと思えることとその強みが発揮できそうな場面を具体的に書こう。
5	5月16日(水)、17日(木)、18日(金)、19日(土)、21日(月)、22日(火)		あなたが社会人として、一番気をつけたいと思うこととその理由を述べよう。
6	5月27日(水)、28日(木)、29日(金)、30日(土)、31日(日)、1日(月)、2日(火)	社会への理解	インターネットと紙と人、それぞれの情報源の、メリット、デメリットを解説しよう。
7	5月30日(水)、31日(木)、6月1日(金)、2日(土)、4日(月)、5日(火)		働いている人に直接話を聴くことの良い点を述べよう。
8	6月6日(水)、7日(木)、8日(金)、9日(土)、11日(月)、12日(火)		「H社ができるまでの工程」を学び、あなたが一番興味をもった部門や仕事とその理由を述べよう。
9	6月13日(水)、14日(木)、15日(金)、16日(土)、18日(月)、19日(火)	社会との関係	ワークレビューカードの言葉を使ってあなたが働く上で大事にしたいことについて述べよう。
10	6月20日(水)、21日(木)、22日(金)、23日(土)、25日(月)、26日(火)		同じ商品を扱う会社でも、求める人物像が違うのは、なぜか理由を述べよう。
11	6月27日(水)、28日(木)、29日(金)、30日(土)、7月2日(月)、3日(火)	自己表現	今日の演習で考えた、自分の強みと働く動機について、納得感を理由も含めて述べよう。
12	7月4日(水)、5日(木)、6日(金)、7日(土)、9日(月)、10日(火)		人に自分を伝える際に、意識すべき事について述べよう。
13	7月11日(水)、12日(木)、13日(金)、14日(土)、16日(月)、17日(火)		グループディスカッションのポイントとその理由を述べよう。
14	7月16日(水)、18日(金)、20日(日)、21日(月)、23日(水)、24日(木)	問題解決	今日のディスカッションを振り返り、気付いたことを書こう。
15	7月25日(水)、26日(木)、27日(金)、28日(土)、30日(月)、31日(火)	まとめ	アンケート実施のため、200字演習は実施せず。

【各期を準備する回】

2回目、4回目、7回目

200字演習演習レポート課題

自立と体験4 第3～10回 自己紹介「ニュースを考える」用ワークシート

資料5

2012 / / 学籍番号 氏名

<ニュースについて考える>

	自分の意見	メンバーの意見
今日のニュースについて知っていること		メンバーの意見
ニュースを読んで、もっと知りたいと思うこと		
ニュースを読んで疑問に思ったこと		
その他(考え、感想など)		

ニュースの内容記載欄



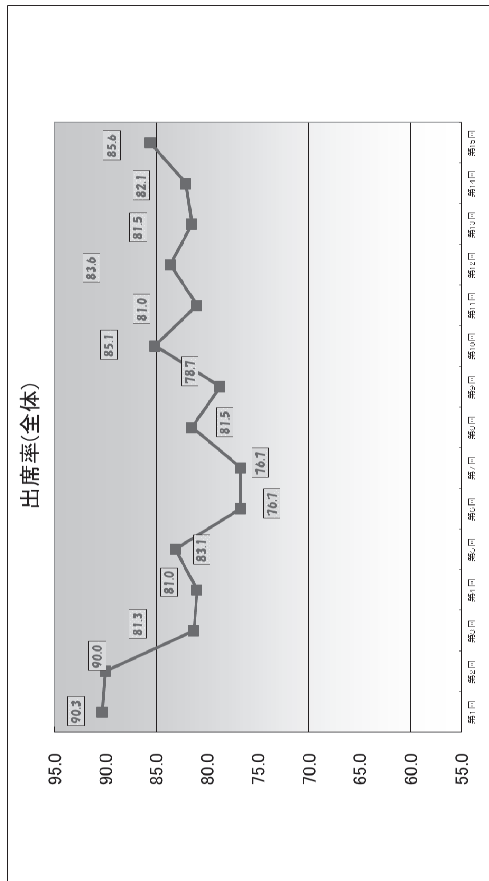
明星大学
MEIJI UNIVERSITY

RIIASEC INC. All rights reserved.

資料1 1
2012「自立と体験4」アンケート

資料10

平成24年度「自立と体験4」出席率



15回卒業の学生は、母数から除いています。(道形 15名、経済 1名、その他 1名)
履修登録取り消し学生1名も母数から除いています。(経済 1名)

平成24年度
「自立と体験4」アンケート

学部・学科(学系) 学籍番号 氏名

「自立と体験4」アンケート

このアンケートは、「自立と体験4」の授業の参考にいたします。
みなさんの成績とは一切関係ありません。みなさんの素直な意見をお聞かせください。

■「自立と体験4」について

◇下記(1)～(3)の質問に対して、それぞれ自分の考えに近いと思う番号を1つ選び、右の口の中に書き入れてください。

(1) あなたはこの授業に出席して、どのように思いましたか？

1. 良かった 2. やや良かった 3. あまり良かった 4. 良くなかった

理由： []

(2) あなたはこの授業にどのように取り組みましたか？

1. 非常に積極的に取り組めた 2. 積極的に取り組めた
3. まあまあ取り組めた 4. (出席したが) あまり積極的に取り組めなかった

理由： []

(3) この授業を後輩にも推薦しますか？

1. 大いに勧めたい 2. 勧めたい 3. あまり勧めたくない 4. 勧めたくない

理由： []

■到達目標について

◇下記(4)～(6)の質問に対して、それぞれ自分の考えに近いと思う番号を1つ選び、右の口の中に書き入れてください。

(4) 授業を通して自分の生き方を考えるきっかけができましたか？

1. とてもそう思う 2. そう思う 3. あまりそう思わない
4. 全くそう思わない

(5) 働くことを通じて社会に貢献するイメージが作れましたか？

1. 大変そう思う 2. そう思う 3. あまりそう思わない
4. 全くそう思わない

(6) 社会にでて働くことの中に、楽しさを見つけられそうですか？

1. 大変そう思う 2. そう思う 3. あまりそう思わない
4. 全くそう思わない

■獲得する意識や能力について

◇下記(7)～(13)の質問に対して、それぞれ自分の考えに近いと思う番号を1つ選び、右の口の中に書き入れてください。

1. とてもそう思う 2. そう思う 3. あまりそう思わない
4. 全くそう思わない

(7) 様々な仕事について理解が深まりましたか？

(8) 自分にあった職業を探したいと思うようになりましたか？

(9) 自分で考えて判断することの大切さが理解できましたか？

(10) 自分にとっての仕事の意味や価値がはっきりしてきましたか？

(11) 自分自身について新たな発見がありましたか？

(12) 情報収集の仕方が身につきましたか？

(13) 文章表現力が身につきましたか？

→裏面にもアンケートがあります。

■現時点での進路について

- (14) 卒業後の進路について教えてください。
 1. 具体的にイメージできている 2. まだイメージできていない
- (15) (14)で1を選択した人は、4年生卒業後の進路希望についてお答えください。
 1. 就職を希望する（自営も含む） 2. 公務員試験を受ける 3. 教員試験を受ける 4. 進学する（大学院・専門学校・留学） 5. その他（ ）
- (16) この夏休み、インターンシップは参加する予定ですか？
 1. 必ず参加しようと思う 2. できれば参加したいと思う 3. する予定はない
- (17) この夏休み、インターンシップ(仕事研究のためのアルバイト含む)以外で就職活動のために計画していることはありますか？
 1. ある 2. 考え中 3. ない

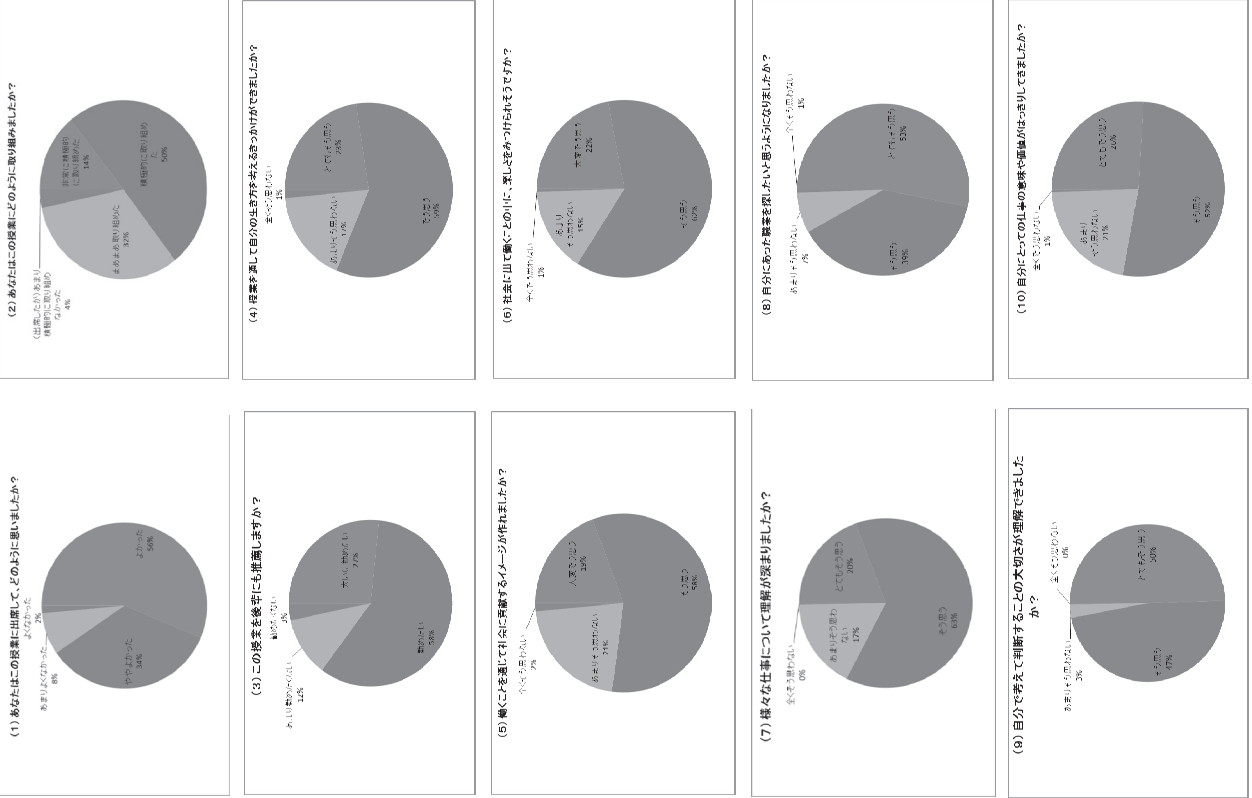
(18) (17)で1、2を選択した人は、その内容を教えてください(複数選択可)

- 1. OB・OG 訪問
- 2. 進路について親、家族と話をする
- 3. 短期留学・語学研修
- 4. 資格取得のための勉強 5. 専門学校 6. 仕事研究
- 7. 筆記試験、またはSPI等の適性検査のための勉強
- 8. その他（ ）

■最後に……

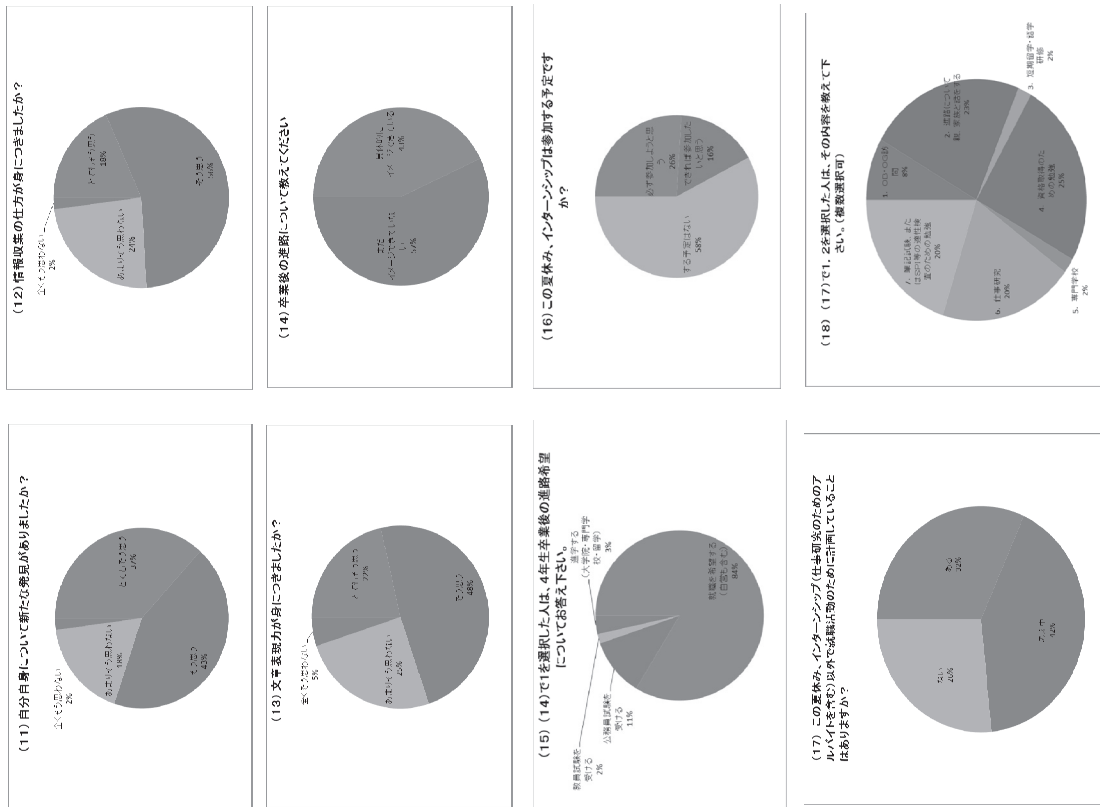
(19)「自立と体験4」の授業の中で最も印象的だったことを挙げて下さい。

ご記入ありがとうございました。



資料12

自立と体験4 アンケート結果（全学）



資料13

「自立と体験4」を履修した学生の皆さんへ
(お知らせ)

「自立と体験4」を履修した皆さんへのフォローを目的とした面談プログラムがスタートします！面談では、例えば下記のような内容について相談を含めて「自立と体験4」を担当した教員が個別面談(1回30分)をします。

※人数の都合上面談は2回までとします。

1. 「自立と体験4」の授業を、もう一度振り返りたい・・・
2. 「今後の就職活動について・・・」相談ののってほしいなあ？
3. 「履歴書等の作成について・・・」相談ののってほしいなあ？
4. 「面接等のスキルトレーニングについて・・・」どうすればいいのかな？ 他

申込み：面談を希望する学生は、

各自キャリアセンターまでお申込ください(先着順)

9月10日(月) 後期授業開始後より随時受付(お早めに！)

なお、面談日は、毎週金曜日 ①13:00～ ②14:00～ のいずれかになります。面談場所などは申込時に各自で確認してください。

キャリアセンター・明星教育センター